

小学生に読みきかせ

—高学年向き—

小学生に絵本の読み聞かせを行ってみようという方を対象にしたリストです。図書に関する記載事項は、書名・編著者名・画家名・訳者名・出版社・大きさ・ページ数・ISBN・通して読むのにかかる時間の目安の順になっています。

あたらしいぼく シャーロット・ゾロトゥ著 エリック・ブレグヴァド絵 みらい なな訳 童話屋
24cm 32p 978-4-924684-58-4 6分

いつもと同じ生活の中で「ぼく」は自分が自分でないような違和感を覚えます。そして大人へと成長しつつある心の変化に戸惑いながらも、今までと違う新しい自分になったことを自覚します。思春期の少年の心理を、落ち着いた絵で丁寧に描きます。

あな 谷川俊太郎著 和田 誠絵 福音館書店 27cm 32p 978-4-8340-0921-7 3分

ある日、ひろしは地面に穴を掘り始めました。理由もなく夢中で掘り続けた自分だけの穴。掘り終えた穴の底から見上げた空は、いつもより高く、青く見えたのでした。絵もシンプルで簡潔な物語ですが、そこには思春期の子どもたちにも伝わる、哲学的奥深さが備わっています。

いつもちこくのおとこのこ ージョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー

ジョン・バーニンガム著・絵 たにかわ しゅんたろう訳 あかね書房 26cm 32p 978-4-251-00517-5 8分

ジョンが学校へ行こうとすると、ワニやライオンが出たり高潮にあったりして、どうしても遅刻してしまいますが、先生は信じてくれず厳しい罰ばかり与えます。怪物のような先生に動じず対処するジョンの姿がシニカルな物語を引き立てます。最後のどんでん返しが愉快で痛烈です。

オオカミと石のスープ アナイス・ヴォージュラード著・絵 平岡 敦訳 徳間書店

29×30cm 24p 978-4-19-861316-7 9分

ある冬の夜、年老いたオオカミがメンドリの家にやってきました。メンドリを心配して近所の動物達が次々と訪れるおかげで、オオカミはメンドリを食べられず、野菜たっぷりの石のスープを食べるはめになります。ユーモラスな話を、本心の表れたオオカミの目がひきたてます。

おおきくなりすぎたくま リンド・ワード著・絵 渡辺茂男訳 ほるぷ出版

27cm 86p 978-4-593-56123-0 14分

ジョニーくんが森から連れ帰った子熊はとてもしずかなり、よその家の食料や作物まで荒らすようになりました。かわいがっていた熊を退治せねばならぬと決意するけなげなジョニーくんですが、最後には意外な幸運に出会います。絵は淡彩ですが、迫力があります。

おじいさんの旅 アレン・セイ著・絵 大島英美訳 ほるぷ出版 30cm 32p 978-4-593-50416-9 6分

若い頃アメリカに移住したおじいさんは、故郷が恋しくなって日本に帰ります。その後、戦争のせいで、戻りたくてもとうとうアメリカには戻れなかったおじいさんの気持ちを継いで、日本生まれのぼくが、アメリカに渡ります。感情を抑制した短い文で、望郷の気持ちを描きます。

からすたろう 八島太郎著・絵 偕成社 31cm 35p 978-4-03-960040-0 9分

入学の時から皆にばかにされていた「ちび」は、6年で受け持たれた先生に、はじめて認められるようになります。自然を深く観察する力を持っていた「ちび」は、学芸会ですばらしいカラスの鳴き声を披露して、生徒や町の人たちに感動を与え、自信を持って卒業していきます。

クムカン山(さん)のトラたいじ (世界みんな絵本1 朝鮮) 松谷みよ子著 梶山俊夫絵 ほるぷ出版
24×25cm 33p 978-4-593-59310-1 8分

キルリヨンの父は、クムカン山の大トラを退治しにいった帰ってきませんでした。そこで、キルリヨンは、父のかたきうちをするために9年もの間鉄砲の稽古をします。力と知恵で大トラを倒すまでに成長したキルリヨンが頼もしく、母とのやりとりに深い情愛を感じ取れます。

さらわれたりゅう ー今昔物語よりー 沼野正子著・絵 福音館書店 20×27cm 31p ISBNなし 8分

日照りの村に雨を降らせて村人にあがめられていた龍神(りゅうじん)は、てんぐにねたまれて岩に閉じこめられます。その後お坊さんに助けられた龍神は、てんぐをこらしめに都へ行きます。迫力のある水墨画で、日本古典文学の世界への扉をひらいてくれます。

しまふくろうのみずうみ 手島圭三郎著・絵 リブリオ出版 31cm 41p 978-4-89784-874-7 7分

北海道の深い山奥のだれも知らない湖に、日が暮れて、シマフクロウの親子が現れました。子どものために魚をとりに飛び立つ一夜の狩りの姿を、力強く美しい版画で描いています。簡潔な文も快く、雄大な自然に生きる野生生物の世界を伝えてくれます。

ゼラルダと人喰(く)い鬼 トミー・ウンゲラー著・絵 たむら りゅういち・あそう くみ訳 評論社
31cm 32p 978-4-566-00111-4 5分

ゼラルダを襲った人喰い鬼はあせって怪我をします。動けない彼がゼラルダにつくってもらった料理は、おいしくて自分が人喰いであることなんて忘れるほどでした。人喰い鬼も幸せになる結末は、ウンゲラーのあたたかい持ち味を感じさせます。

たいせつなこと マーガレット・ワイズ・ブラウン著 レナード・ワイズガード絵
うちだ ややこ訳 フレーベル館 26cm 24p 978-4-577-02288-7 5分

普段は気にかけないありきたりなものでも、必ず役割や意味があります。それが「たいせつなこと」。身近なものを見つめなおし、一言ずつ綴られる言葉が、素朴で繊細ながら印象的な絵と一体となって、聞き手に様々なたいせつなことを問いかけます。

とうもろこしおばあさん ーアメリカ・インディアン民話ー 秋野和子再話 秋野亥左牟絵 福音館書店
20×27cm 31p 978-4-8340-1175-3 7分

昔ある村を一人の老女が訪れました。快く迎えた村人に彼女はとうもろこしパンをふるまいます。とうもろこしを初めて知った村人はどこで手に入れたか知りたくてこっそりあとをつけ、その秘密をのぞいてしまいます。とうもろこし栽培が伝わった神秘的な由来を多彩な絵で描きます。

どんなかんじかなあ 中山千夏著 和田 誠絵 自由国民社 27cm 33p 978-4-426-87506-0 5分

目が見えない友達、耳が聞こえない友達、両親を失った友達の感じている世界を、車椅子の主人公ひろくんが「どんなかんじかなあ」と考えます。無駄のない明るい絵が聞き手の想像をひろげ、前向きな考え方は物事の多様なとらえ方を教えてくれます。

ねんどぼうや ミラ・ギンズバーグ著 ジョン・A. スミス絵 覚 和歌子訳 徳間書店

29cm 32p 978-4-19-861724-0 8分

おじいさんが作ったねんどぼうやは、目に入るものすべてを食べて巨大化し、おじいさんとおばあさんまで食べて、村中のものを食べつくしに出てゆきました。テンポの良い語りと迫力満点の絵がよく合って、のどかさやダイナミックさが楽しめます。ロシアの昔話が元になっています。

ハーモニカのめいじんレンティル ロバート・マックロスキー著・絵 まさき るりこ訳 国土社

32cm 63p 978-4-337-06237-5 10分

歌も口笛も下手だけれど音楽の大好きなレンティルは、「ハーモニカのめいじんになろう」と決めます。そんなある日、町でおこった大事件をハーモニカの演奏で見事に解決します。一生懸命に練習することで自信をつけていく少年の姿が、モノトーンの絵でいきいきと描かれています。

100万回生きたねこ 佐野洋子著・絵 講談社 25×27cm 31p 978-4-06-127274-3 11分

100万回も生きたことが自慢の立派な猫がいました。ある時、白い猫に出会い一緒に暮らし始めます。やがて白い猫が死んだあと、猫は生まれて初めて泣きました。淡々とした語りと落ち着いた色調の絵の中に、愛とは、生きることとはどういうことかが描かれています。

ルピナスさん ー小さなおばあさんのお話ー パーバラ・クーニー著・絵 かけがわ やすこ訳

ほるぷ出版 21×27cm 32p 978-4-593-50209-7 11分

子どものころ、世の中をもっと美しくするために何かすることをおじいさんと約束したアリスは、年をとってから、村中にルピナスの花を植え、ルピナスさんと呼ばれるようになりました。その約束は次の世代にも受け継がれました。人生の意義を、世界の美しさとともに描きます。

ロバのシルベスターとまほうの小石 ウィリアム・スタイグ著・絵 せた ていじ訳 評論社

29cm 35p 978-4-566-00835-9 12分

何でものぞみのかなう“まほうの小石”を手に入れたシルベスターは、家へ帰る途中にライオンに出会い、恐ろしさのあまり岩になってしまいます。のちに、息子をさがしまわっていた父母と再会できた時、家族は魔法が使えなくても“のぞみ”がかなうことを知ります。

わすれられないおくりもの スーザン・バーレイ著・絵 小川仁央訳 評論社

22×27cm 25p 978-4-566-00264-7 8分

賢く優しくアナグマが亡くなりました。悲しみの中で思い出を語り合う仲間たちは、アナグマが残していった、たくさんの知恵に気づくのです。淡い色彩のペン画が静かな情景を描き出し、支えあうことの意味、死んでもなお残される大切なものを伝えてくれます。

